

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年3月21日

事業所名:放課後等デイサービスセンター ころね

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		パーティションや家具、畳等で境界を作り活動を分けている。	利用される方の特性に合わせて、都度環境作りを行う。
	2	職員の配置数は適切である	○		安全を第一に活動内容に合わせて職員・支援者を増員している。	活動に合わせ法令で定められている支援者以上の配置を行って事故防止に努めていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			手すり等はないが、手すりが必要な利用者様には付き添い支援を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に課題を支援者間で共有し、チーム支援を念頭に置いて取り組んでいる。	職員のみならずパート支援者にも役割を配し業務に参画しやすい環境づくりを目指し仕事量の偏りがないようにも努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		忌憚ない意見を頂けるように信頼関係を築く様に努めている。	傾聴する事や言葉遣い等保護者様への対応も課題として取り組む。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPIにて公開	<a href="https://www.kokorone0701.com/">https://www.kokorone0701.com/</a>
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		今年度はベアトレについて研修を始めた。	職員のみならず、パート支援者にも研修に参加するだけでなく研修会を開く機会を設けたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリング、アセスメントを重ね作成。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		オリジナルのアセスメントシートを使用。	他事業所のアセスメントシート等で良いところは真似して更新してゆきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用者の特性や心理状態をそれぞれの支援者が持ちよりチームで支援内容を決めている。	支援の振り返りを支援者間で共有して、次回のプログラムを練りなおす様にしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動内容の振り返りを行い固定化しないように努めている。	常に「やってみたい！」を育む支援を目指し「やってみたい」を支援するように支援者全員に共通認識するようにしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		四季、季節を感じたり学齢期に必要な経験等が出来る様にサービス提供している。	今後も常日頃から利用者様の「やってみたい」を傾聴し、保護者様からの要望も汲み入れ長期休暇時、放課後時に振り分け企画していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		特性や好みを把握し学年別等多種集団活動が出来る様に支援している。	常に「やってみたい！」を育む支援を目指し、「やってみたら面白かった！」となるような集団活動、個別活動を利用者に提供する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		開始前に流れや役割を確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		翌朝になる事も有るが情報を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を取り、モニタリング時等にも振り返りを行っている。	今後の支援のヒントとなる事等も記録するので記録は今後も丁寧に取り組みたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングの結果を踏まえて個別支援計画を立案している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		基本活動を意識し組み合わせしている。	地域交流の機会の提供は今年度はコロナ感染対策上難しかったが、ミュージック・ケアや畑活動・清掃・買い物等日常生活に重点を置き多方面から支援を組み立てようと考えている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管の他に必要に応じ児童指導員も参加している。	必要な支援者が参画するように周知している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		引継ぎ時に情報を共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医師や看護師不在の為、医ケアが必要な利用者の受け入れは現在行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		出来る範囲で就学前の計画書や検査結果等を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		求めに応じて情報提供している。	継続して情報共有していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて研修に参加したり助言を求めている。	今後も助言を求めたり、研修にも積極的に参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナなどあり今年も機会が持てなかった。	保護者様の意見も踏まえ、他施設との企画立案を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	今後は参加してゆきたいと考えている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳を用いて情報の共有を行っている。	共有した情報はモニタリングに活かし個別支援計画にも活かしていきたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	社内研修を始めたが今年度は実際にトレーニング支援には未だ至っていない。	研修を重ね、ペアトレ支援が出来るようになりたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っているが、個別の面談時にもなんで聞いて欲しいと機会を持つようになっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて助言し、個別支援計画に盛り込む場合もある。	きめ細やかに保護者様と連携を図り支援を重ねていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度は保護者様に保護者会の開催を希望されるかアンケートを取ってみた。	次年度は、希望される保護者の方に保護者会を実際に開いて今後の支援に活かしたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		対応の体制を機動させ、迅速かつ適切に事実を把握し正しく対応すべく心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		季節ごとに年4回会報誌を発行し、行事や研修等を掲載している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の大切さを支援者全員に伝え説明している。	個人情報の大切さを支援者全員に伝え説明している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じて別途時間を設けたり場所を移して配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今年度も地域の方に畑作業のアドバイスをもらったり注連縄作りの土台を作ってもらった。	来年度は地域住民と連携を図り招待できる何かを検討し実施したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		保護者様への周知に工夫が必要。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今年度は洪水水災害を想定した訓練も併せて行った。又起震車を呼び地震の疑似体験もしている。	準備や要する時間より、放課後の支援よりも休日や長期休暇に行う事が多いが、その際に訓練に参加出来ない支援者にどのように機会確保するかが課題。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		外部講師を招き虐待防止等の研修会を開催している。又毎月の定例ミーティングの中で虐待防止についても触れ振り返る時間を設けている。	今後も継続して虐待防止のアンケートを定期的に実施して自身を振り返る機会を確保していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	現状、身体拘束が必要なケースは無いが保護者様には契約時や面談時に説明を行っている。	必要時に向けて書類の作成を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	医師の指示書を必要とする利用者がいない。	保護者様から細かく指示を頂いたり質問をしたりして必要に応じて医師の指示書を要請する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		定期的にヒヤリハットを振り返り再発防止に努めている。	多忙でヒヤリハットの記入が少ない時は敢えて支援者間でヒヤリハット記入を声に出して記入を怠らない様にして事故や虐待防止に役立てる。